

(3) 協同性

友達と関わる中で、互いの思いや考えなどを共有し、共通の目的の実現に向けて、考えたり、工夫したり、協力したり、充実感をもってやり遂げるようになる。



保育者の援助と環境構成

子どもたちが、見たりやったりして楽しかったことを疑似的体験のように作って遊びたいという目的をもてていました。日常使っている机を使用し、そこからエアホッケー台へと細工をしています。細長めの段ボール片を渡すと周りを囲み、製作コーナー（画用紙など置いてある場）から使える材料（ビニールテープやティッシュボックス）を持ってきて、完成です。遊びは面白く、4歳児もやりたいと言ってくるほどでした。4歳児が相手のときは、やや強さを手加減する姿も見られました。

面白いね！

6月、旅行に行ってきた5歳児A児が「ゲームやったの。相手の穴に円盤みたいの入れるんだよ！それやりたい。」と話しにきた。話をよく聞くとエアホッケーとわかる。友達も「知っている。作って遊びたい。」ということになり、「机でいいんじゃない？」「落っこちないように周り高くしたらいいよ。」と、段ボール片やガムテープを使いながら作り、ヨーグルト容器を手具にして遊びを楽しみ始めた。

夏祭り 楽しみ！



保育者の援助と環境構成

子どもたちは、今までの経験から夏まつりの楽しさを知っています。鳴子の曲にも慣れてきたようです。この場面では、Y児が友達を誘い、鳴子を踊っています。互いの顔が見える円にしています。一人一人の笑顔が見られ、夏祭りを楽しみにしながら取り組んでいます。保育者は、夏祭りにみんなで鳴子を踊る、という目的をもち、取り組む姿を認めます。

7月は、夏祭りが行われる。5歳児は学級で話し合い、鳴子をやろうということになった。遊びの時間にY児が友達に「鳴子やろうよ！」と声をかける。自然に円ができ、自分たちで曲をかけて、踊り出す。「今のかっこいいと思うよ。」「みんなで踊るって、楽しいね！」「うん！」「かっこよく踊れるようにしようよ！」と、話をしている。保育者は「とっても楽しそうね。気持ちがぴったり合っている！」と声をかけ認めていた。

みんなで取り組むこと



5歳児の園生活も、残りわずかとなってきた頃、様々な表現（劇や歌、合奏等）を発表する機会があります。5歳児にとっては、みんなで行う最後の劇等になります。準備では、子どもたちが、「できることは自分たちでやろう。」ということになりました。大道具、小道具、大きな背景と、それぞれに自分達ができることを進めていきます。「こんな大きい描けるかな・・・。」という声もありましたが、「絵の具なら大丈夫だよ。」と、うれしそうに太い筆でダイナミックに描きつつも、丁寧に塗って、仕上げていました。